資料１

個人や家族の困りごとに対する相談支援のイメージ図

②多部署・関係機関の協働

支援方針を検討する上位の会議体
（多機関協働会議）の導入

複雑化・複合化した事例について、関係者や関係機関を参集し、
第三者的な見地から専門的かつ多角的視点で検討・調整を行う

連携

連携

＜関係者や関係機関＞

- 町田市関係各課（福祉・まちづくり）
- 町田市社会福祉協議会
- コミュニティソーシャルワーカー
- 各相談支援機関　・福祉サービス提供事業所
- 支援団体（NPO法人等）　・保健センター
- 児童相談所　・保育・教育機関
- ハローワーク　・病院　・警察　・消防　など

支援の方向性の提示

既存のケース検討では対応が困難な事例の協議

①多様な相談の受け止め

相談者が身近な地域の相談機関でまとめて相談することができている

障がい者支援センター
委託相談事業所など

高齢者支援センター
あんしん相談室など

保健所

子ども家庭支援センター
地域子育て相談センターなど

生活援護課窓口
自立相談支援機関

地域からの相談

（仮称）つなぐシートの
導入による情報共有

支援　相談

市民（個人や家族）

相談　支援

支援　相談

参加　支援

④社会とのつながりの支援

居住支援

就労準備支援

新たな事業の
創出など

孤立した人・世帯が社会とつながる

③支援が届いていない人に必要な支援を届ける

定期的・継続的な訪問支援、地域における支援者・
支援機関の開拓等を行う地域福祉コーディネーターの導入

潜在的な困りごとを把握し、継続的な支援を行う
様々な関係機関、仕組みをつなぐ

情報入手、地域における支援者・支援機関の開拓

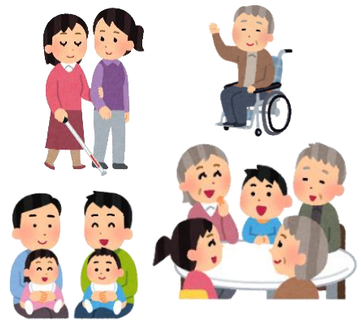
新たな地域活動・居場所等の増加

（参考）地域づくり

地域のプラットフォーム

地域活動の活性化

- 世代や属性を超えて交流できる場や居場所がある
- 個人や団体がつながり、交流・参加・学びの機会が生み出される
- 地域のプラットフォームが構築され、地域における活動が活性化している

見守り等の活性化

誰もが集まれる居場所づくり